

平成30年度

工業標準化事業表彰

平成30年10月2日

経 済 産 業 省

目 次

1 . 工業標準化事業表彰 内閣總理大臣表彰	(個人 1名)	1
2 . 工業標準化事業表彰 經濟産業大臣表彰 (個人)	(個人 16名)	2
3 . 工業標準化事業表彰 經濟産業大臣表彰 (組織)	(組織 5組織)	6
4 . 国際標準化貢獻者表彰 産業技術環境局長表彰	(個人 18名)	8
5 . 国際標準化奨励者表彰 産業技術環境局長表彰	(個人 8名)	13
6 . 工業標準化功勞者表彰 産業技術環境局長表彰	(個人 6名、組織 2組織) . . .	15

平成30年度工業標準化事業表彰 内閣総理大臣表彰受賞者

平川 秀治（ひらかわ しゅうじ）

一般財団法人日本規格協会 理事 規格開発センター所長 （68歳）

【略 歴】

1978年 東京芝浦電気株式会社（現 株式会社東芝）入社

2003年 同社技術企画室グループ参事兼標準化担当グループ長

2005年 同社技術企画室グループ（標準化担当）主監

2009年 東芝リサーチ・コンサルティング株式会社に移籍

2011～2016年 IEC/SMB（国際電気標準会議/標準管理評議会）日本代表委員

2011年～現在 IEC/DMT（ディレクティブメンテナンスチーム）委員

2016年 東芝リサーチ・コンサルティング株式会社 退職

2017年～現在 IEC/TC124（ウェアラブルエレクトロニクスデバイス及びテクノロジー）
国際議長

2017年 一般財団法人日本規格協会 理事 規格開発センター所長

【主な功績】

1. IEC/SMB 日本代表委員任期中、TC120（電気エネルギー貯蔵システム）、TC123（電力流通設備のアセットマネジメント）及びTC122（UHV 交流送電システム）の3つの技術委員会の設立を主導し、国際幹事の獲得に成功。特に、TC120は、技術的に日本に優位性がある大容量電池に関する規格審議の委員会で、太陽光発電や風力発電などの新エネルギーの技術開発やこれに伴い必要となる蓄電池技術開発など、今後の日本の電気エネルギーの安定供給の観点から極めて重要なポストを獲得。また、TC122は、日本が世界で最初に開発した110万ボルト超の超高压電力伝送技術を審議する委員会で、日本が技術指導した中国と激しい幹事国争いとなり、氏の水面下の各国委員などへの交渉の結果、国際幹事の獲得に成功。
2. IEC/TC100（オーディオ・ビデオ・マルチメディアシステム及び機器）の国際幹事（2004～2010年）の任期中に氏が主導して作成されたIEC62087Ed.2（オーディオ・ビデオ及び関連機器の消費電力測定方法 第2版）は、現在一般的となっているフラットパネルを使うテレビジョン受信機の消費電力を測定するために改正され、日本を含む多くの国で採用された。なお、この規格は、IEC中央事務局での2010年ベストセラーとなった。
3. IEC/DMT 委員として、規格開発のルールブックであるディレクティブ（Directives）の改訂作業に尽力。特にこれまで、TC100において、例外として運用されていた手順を、ディレクティブの手順に盛り込むことで、規格利用者の利便性を大幅に高めた。
4. IEC/TC 124は、新規の導電性繊維開発等でEUが近年積極的に技術開発に投資している分野であり、国際議長として日本独自技術を国際標準化に繋げる道筋を開いた。

【敬称略】

平成30年度工業標準化事業表彰経済産業大臣表彰受賞者

個人

NO	氏名	所属	主な功績
1	うえの ふみお 上野 文雄	株式会社 東芝 部品材料事業統 括部 嘱託社員	IEC/TC105(燃料電池技術)の国際議長を8年間務め、傘下の14のWGの原案審議活動の促進や新規開発体制を確立し、燃料電池国際標準化活動を推進。また、スマートシティー関連のシステム評価グループ IEC/SEG on Smart Cities (IEC/スマートシティー 評価グループ)のコンビーナ、SyC on Smart Cities(スマートシティー システムコミッティ)の国際議長を務め、国際標準化に貢献。
2	えんどう しげひさ 遠藤 茂寿	国立研究開発法人産業技術総合研究所 安全科学研究部門リスク評価戦略グループ 派遣職員	ISO/TC24(粒子特性評価及びふるい)/SC4(粒子特性評価)の国際幹事、エキスパート、国内委員会委員長として国際標準化を推進し、粉体製品の品質を適正に評価するための評価手法の国際標準化に貢献。また、先端電気・電子機器に用いられるファインセラミックスの品質を評価する上で重要となるTC206(ファインセラミックス)/WG13(セラミックス粉体の真密度測定)のコンビーナとしてISO 18753:2004(液体ピクノメータ法によるセラミック粉体の密度測定)の制定に貢献するなど多くの国際標準化活動の審議に参画。さらに、国際統合化したJISの原案作成にも貢献。
3	おかど まさる 岡戸 克	JFE テクノリサーチ株式会社 ビジネスコンサルティング本部 顧問	ISO/TC 244(工業炉及び関連装置)の初代議長を9年間務めた。鉄鋼業技術分野における国内外での豊富な経験を生かし、国際会議(総会)の取りまとめを中心として、委員会運営に精力的に尽力。国際議長として公平な立場で委員会を滞りなく運営し、日本提案4件を含む11件の国際標準制定に貢献。
4	おかもと まさひで 岡本 正英	株式会社 日立製作所 研究開発グループ 技術戦略室 チーフアーキテクト 室 チーフアーキテクト	13のWGを有するIEC/TC91(電子実装技術)を国際幹事として取り纏めた。特に規格案の迅速処理等のマネジメントを工夫することで国際標準開発を従来以上に活性化させ、これまで71(うち日本提案39)のIEC規格の制定、27の新規提案(うち日本提案10)がなされ、IEC活動全体及び日本の産業界に貢献。また、実装品質の基準については、日本に有利になるように国際標準化を主導。

NO	氏名	所属	主な功績
5	オロボセレ ジョン	テュフ・ラインランド・ジャパン株式会社 センtralラボラトリーズ 課長	IEC/IECEE (電気機器・部品適合性試験認証制度)において、PAC (相互評価委員会) 委員、CTL (試験所委員会) 議長などの要職に選任され、世界中に500以上登録されている試験所間の技術の標準化と向上、IECEEの信頼性向上と普及に貢献。現在、IECEEは世界中の法規制や任意認証制度において受け入れが認められており、電気・電子産業に広く活用されている。
6	かわせ あきら 川瀬 晃	一般社団法人日本分析機器工業会 環境委員会 規格ワーキンググループ アドバイザー	JISC (日本工業標準調査会) 一般化学技術専門委員会会長として、一般化学関連の数多くのJISの制定・改正審議の取りまとめに多大なる尽力。とりわけ市場変化や技術革新に伴い、古くなってしまった試験方法に対し、正確さと迅速さを保証する新しい方法を取り入れたJISであることを方針として定め、その方針を徹底することにより、時代の要請に応じたJIS開発が促進。また、試薬のJIS原案作成委員会委員長、委員として、試験分析装置、試験分析法及び試薬に関し、258件のJISの制定及び改正を長年にわたり主導し、分析機器業界や試薬業界及び試験分析規格に関連する産業の発展に寄与。
7	くぼの かつお 久保野 勝男	学校法人新潟総合学園 新潟医療福祉大学 医療技術学部 臨床技術学科 教授	ILAC (国際試験所認定協力機構)、APLAC (アジア太平洋試験所認定協力機構)にてコンピナとして適合性評価に関するガイドラインの策定に尽力。特に各国の規制の違いや臨床検査室運営や資格制度の違いがあるため、各国の事情に応じた調整に尽力。また、ISO/TC212 (臨床検査及び対外診断検査システム) 国内検討委員会での長年にわたる活動を通し、医療分野での標準化、国際整合に貢献するとともに、これらの適合性評価制度の国内制度の構築、普及に貢献。
8	さとう ひでたか 佐藤 秀隆	株式会社 NTT ファシリティーズ 研究開発部 ファシリティー部門 担当部長	IEC/TC37 (避雷器)/SC37B (低圧サージ防護部品)/WG3 (通信用 SIT (サージアイソレーショントランス))のコンピナを務め、通信用 SIT 技術に関する新規業務項目提案を行い、IEC61643-351 及び -352 (SIT 規格シリーズ)の制定に貢献。AI (人工知能)、IoT (インターネット接続されるモノ)等、インターネット接続される安全特別低電圧 ICT (情報通信技術) 機器における雷害対策を先取りした国際規格を日本主導で策定し、国際産業競争力強化に貢献。

NO	氏名	所属	主な功績
9	しづえ のぶゆき 澁江 伸之	一般社団法人日本配線システム工業会 専務理事	工業会内に設置された JIS 小委員会, IEC 小委員会の主査を歴任し、また、IEC/TC23 (電気用品) /SC23B (プラグ、コンセント及びスイッチ) エキスパートとして、100V 系の絶縁距離・耐電圧を提案するなど、国内外の標準化の活性化に貢献。特に性能規定化された電気用品安全法技術基準の下、国際規格との整合規格の整備に尽力。
10	なかじま ひろし 中島 裕	学校法人 明海大学 歯学部 (機能保存回復学講座歯科生体材料学分野) 教授	ISO/TC106 (歯科) に専門委員として参画、WG コンビーナ及び SC7 国際議長を務めている。義歯床安定用糊材の JIS に基づいた ISO 規格を日本提案するなど、オーラルケア分野に関する ISO 規格の制定・改正において、日本製品の国際競争力強化及び国際標準化に貢献。また、同 TC 傘下の国内委員会委員長、日本歯科医師会の材料規格委員を務め、歯科用医療機器に関する JIS の制定・改正にも尽力。
11	ながせ りょう 長瀬 亮	学校法人千葉工業大学 工学部 機械電子創成工学科 教授	IEC/TC86 (ファイバオプティクス) /SC86B (光ファイバ接続部品・受動部品) の日本代表の一員として、多くの IEC 規格の開発に貢献。現在広く普及している直径 1.25mm 細径ジルコニアフェルールの開発者であり、光コネクタ基盤技術を先導した実績を生かし、IEC における多数の光コネクタ関連文書の開発に貢献するとともに日本の意見を反映させ、日本の光コネクタ及び光受動部品業界の発展に寄与。
12	にしえ ゆうじ 西江 勇二	一般財団法人研友社 理事長	ISO/TC269 (鉄道分野) の国際議長、JISC (日本工業標準調査会) 標準第一部会鉄道技術専門委員会委員長等の鉄道分野の標準化に関連する要職を多く務め、標準化活動を主導。ISO/TC269 の国際議長としては、TC 設立後の初代議長として、3つの SC を設置するなど TC の立ち上げに貢献するとともに、CEN (欧州標準化委員会) /TC256 (鉄道分野) 総会へ出席し、欧州勢との連携構築に尽力。また、JISC 標準第一部会委員としての活動や鉄道に関する国際規格の普及・啓発に貢献。

NO	氏名	所属	主な功績
13	ふくと じゅんじ 福戸 淳司	国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 海上技術安全研究所 研究監	16年に亘り ISO/TC8(船舶及び海洋技術)/SC6(航海及び操船分科委員会)の国内対策委員会委員として活動し、日本提案の国際規格19件の策定に貢献。また、TC8/SC6/WG9(インジケータ作業委員会)のコンビーナ、プロジェクトリーダーとして、ISO19697:2016(船用電子傾斜計)や ISO/DIS21792(船内電話設備に関する指針)など日本の船用機器メーカーの基準を国際規格化し、産業競争力強化や航海の安全向上に貢献。
14	ふるぬし やすこ 古主 泰子	一般社団法人日本鉄鋼連盟 標準化センター事務局 主査	ISO/TC17(鋼)/SC1(化学成分の定量方法)及び ISO/TC102(鉄鉱石及び還元鉄)/SC2(化学分析方法)の日本代表兼エキスパートを6年間務め、また、6つのWGコンビーナに就任し、ISO規格の制定・改正を主導。国際共同実験が伴う難易度が高い鉄鋼分析及び鉄鉱石分析に関する国際標準化活動に多大なる貢献。
15	まちだ あつひこ 町田 篤彦	一般社団法人社会基盤技術評価支援機構・関東代表理事 兼 専務理事	ISO/TC71(コンクリート、鉄筋コンクリート及びプレストレストコンクリート)SC6(コンクリートの新しいコンクリート補強材料)を創設するとともに10年以上に亘り議長として、連続繊維補強材の試験方法、品質規格に関する国際標準化に尽力。特にコンクリート用炭素繊維は、高強度、軽量、対腐食性に優位。しかし、各国の委員の連続性が保たれなかったことや自国又は熟知する製品の技術に固執しがちであったため、試験条件の統一が困難であり、制定まで約8年を要したが、結果として日本の試験方法を採用することができた。これは、それまで日本が積み上げた膨大な試験データや試験器具が国際的にそのまま使用できることを意味し、日本の産業界に多大な貢献。
16	みかど すすむ 三角 進 (角は、クの下に用)	株式会社日研工作所 常務取締役	ISO/TC29(工具)WGの各種エキスパートに10年以上に亘り、現在まで継続して参画し、ISO16084(回転工具及び工具システムの釣合い)を含め、3件のISO規格制定等に貢献。特に各国代表との関係を構築し、日本の意見を粘り強く主張することで、実態に即した日本の意見が反映された。その後、展示会において講演会を開催するなど使用者と生産者の相互理解を深め、この国際規格の普及にも尽力し、ツーリング、工具のコスト低減にも寄与した。また、JISC(日本工業標準調査会)産業オートメーション技術委員会臨時委員や工業会の標準化委員会に参画し、ツーリング、工具業界発展に寄与。

[五十音順、敬称略]

組織

NO	組織名	主な功績
1	CYBERDYNE 株式会社	<p>新市場創造型標準化制度により、JISB8456-1(生活支援ロボット-第1部:腰補助用装着型身体アシストロボット)が2017年10月に制定公示され、生活支援ロボットの市場拡大に貢献。また、同規格の性能試験方法を国際標準化すべく、プロジェクトリーダーとして、ISOにおける新規作業項目提案を行い、我が国のプレゼンスの向上に貢献。さらに生活支援ロボットの国際安全規格 ISO13482 や、運動機能回復を意図する医療用ロボットの国際安全規格 IEC 80601-2-78 の標準化活動、JIS B8445(ロボット及びロボティクスデバイス-生活支援ロボットの安全要求事項)、B8446-1(生活支援ロボットの安全要求事項-第1部:マニピュレータを備えない静的安全移動作業型ロボット)、B8446-2(生活支援ロボットの安全要求事項-第2部:低出力装着型身体アシストロボット):原案作成委員会委員等に参加し、日本のロボット産業及び標準化の発展に寄与。</p>
2	株式会社田中電気研究所	<p>新市場創造型標準化制度により、2018年にJISB7996(排ガス中のダスト濃度自動計測器の性能評価方法)が制定公示され、市場開拓に大きく貢献。また、特許庁主催「グローバル知財戦略フォーラム2018」等で、新市場創造型標準化制度の活用事例や、標準化ビジネス戦略について講演し、標準化の普及啓発活動に尽力。</p>
3	長野県工業技術総合センター	<p>平成27年11月に標準化活用支援パートナーシップ機関に登録し、講習会や地元企業への情報提供、技術提供等を通じて、新市場テーマの発掘に積極的に貢献。また、スキーに関する一連のJIS化を推進し、安全性の確保に寄与するなど既存のJISに加え、新市場の標準化テーマが採択されている。</p>
4	一般社団法人日本医療機器テクノロジー協会	<p>ISO/TC194(医療機器の生物学的安全性及び臨床評価)の国内審議団体を1988年に引き受けて以来、ISO/TC76(医療用輸血装置)など多くの国内審議団体として医療機器分野の国際標準化活動に尽力し、日本製品を考慮した国際提案や日本製品の国際競争力向上に功績。また、2005年の旧薬事法の改正以来、同法の第三者認証制度に引用されるJISの原案作成団体として国際規格と整合し、かつ、医療機器の国際市場で産業競争力寄与に資する76件のJISの制定に貢献。</p>

5	一般社団法人日本計量機器工業連合会	計量法に引用される計量器の JIS を中心にそれ以外の計量器を含め約 70 件の JIS を整備した。また、各国の計量器の規制当局が組織する OIML(国際法定計量機関)の活動にも積極的に参画し、これらの活動を通じて、計量器の国際整合した JIS を整備することで、日本の計量器メーカーの産業競争力強化及び消費者保護に多大な貢献をしている。最近は、「自動はかり」や「水素燃料電池車に水素を供給する計量システム」の国内外の標準化にも取り組んでいる。
---	-------------------	---

[五十音順]

平成30年度国際標準化貢献者表彰（産業技術環境局長表彰）受賞者

NO	氏名	所属	主な功績
1	いしだ しんのすけ 石田 真之助	株式会社本田技術研究所 四輪 R&D センター 統合制御開発室 第4ブロック シニアエキスパート	ISO/TC204（高度道路交通システム）プロジェクトリーダー及びエキスパートとして車両制御技術の国際標準化に貢献。特に路外逸脱防止システムの規格（自動車の運転中に不注意によって路外に逸脱するおそれがあるときに自動で操舵等を制御し、これを防止するシステムの性能要件及び試験方法）はプロジェクトリーダーとして国内の意見を取りまとめ、9月にも国際規格化される予定。
2	いとう なな 伊藤 納奈	国立研究開発法人産業技術総合研究所 情報・人間工学領域 人間情報研究部門 感覚知覚情報デザイン研究グループ長	ISO/TC159（人間工学）プロジェクトリーダー、エキスパート、コンビナとして、複数の国際規格発行に貢献。特に「ISO/IEC ガイド 71 の適用に関する人間工学的データ及び指針」では、個人差が大きく計測・標準化が困難であった視覚障害や色覚異常の大量の視覚データを取得し、規格に反映するなどアクセシブルデザイン分野に貢献。
3	うえまつ しょうご 植松 正吾	植松技術事務所 代表	ISO/TC61（プラスチック）/SC5（物理化学的性質）/WG22（生分解性プラスチック）プロジェクトリーダー、エキスパートとして複数の日本提案の国際規格化に尽力。特に国内の大学、研究機関、装置メーカーとの協力体制構築や海外6カ国でのラウンドロビンテスト実施の中心となり、迅速な国際規格化に成功した。プラスチックの生分解度を検証する国際的な評価方法を確立したことは、技術の進展に大きく貢献している。
4	えのもと よしひこ 榎本 義彦	日本アイ・ビー・エム株式会社 研究開発ストラテジー&オペレーションズ アジア・パシフィック標準・製品安全 アドバイザリーS/W エンジニア	ISO/IEC JTC1/SC40（IT サービスマネジメントとIT ガバナンス）/WG 3（IT を使ったビジネスプロセスアウトソーシング）の小委員会において、ISO/IEC 30105（IT を使ったビジネスプロセスアウトソーシング）の5部全てを成功裏に発行することに大きく貢献。JTC 1/WG 9（ビッグデータ）及び JISC（日本工業標準調査会）情報技術専門委員会において、国際規格案及び JIS 原案の品質向上に貢献。

NO	氏名	所属	主な功績
5	おちあい はじめ 落合 統	株式会社オリエンタルコンサルタンツグローバル 軌道交通事業部軌道交通計画部	鉄道用電気システムに関するプロジェクトリーダー及びエキスパートとして複数の国際規格制定に貢献。特に列車の ICT 化の中核となる伝送系の規格に関し、欧州中心に制定された規格は速度が遅く、汎用性に欠けていたが氏は高速イーサネット方式を提案し、頑強な反対意見が出されたが実績や実験データ等に基づき IEC 61375-3-4 (鉄道用電子機器 - TCN - 第 3-4 部: イーサネットで構成したネットワーク (ECN)) を制定した貢献は大。
6	きくち まさのり 菊池 正紀	国立研究開発法人 物質・材料研究機構 機能性材料研究拠点 バイオセラミックスグループ グループリーダー	ISO/TC150 (外科用インプラント) /SC7 (再生医療製品) のエキスパート、プロジェクトリーダーとして国際標準化に貢献。特に 2018 年に発行された ISO19090 (生態活性セラミックス多孔体への細胞侵入性の試験法) は、多くの研究者が否定する中、予備実験や国内及び国際ラウンドロビン試験を通じてその試験方法を確認し、今後の再生医療技術の進展が期待される規格。他に同 SC1 (材料) /WG3 (セラミックス) のコンビーナなどでも、国際標準化に貢献。
7	くろかわ さとる 黒川 悟	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 計量標準総合センター 物理計測標準研究部門 電磁界標準研究グループ長	IEC/TC103 (無線通信用送信装置) /WG6 (光ファイバ無線送信装置) プロジェクトリーダー、国内対策主査として、日本が世界に先駆けて実用化した光ファイバ無線技術に関する日本提案の 5 件の国際規格発行に貢献。特に、国内企業へのデータの取得や各国へのラウンドロビンテストの働きかけなどの尽力が大であり、こうした実績が評価され、各国からの信頼も厚く、IEC/TC103 国際幹事に就任。
8	ごうだ ただひろ 合田 忠弘	学校法人 名古屋電気学園 愛知工業大学 エコ電力研究センター 客員教授	経済産業省、NEDO (国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構) 及び IEC の各 TC 国内対応委員会を持つ団体が運営する委員会において重要な役職を務め、IEC 規格への UHV の標準電圧 (1100kV) の反映、スマートグリッド開発に関するロードマップの作成及び国際標準化 18 項目の選定、SyC-SE (システムコミッティ-システムエナジー) に対する拡張 SGAM (スマートグリッドアーキテクチモデル) の提案及び PT (プロジェクトチーム) の発足、分散型電源の系統接続に関わる体系化及び規格の提案などを推進。

NO	氏名	所属	主な功績
9	ごか たてお 五家 建夫	(元)独立行政法人 宇宙航空研究開発機構 研究開発本部 宇宙環境グループ グループ長	ISO/TC20(航空・宇宙機)/SC14(宇宙システム・運用)/WG4(宇宙環境)の国内対策主査として国際標準を主導し、日本のプレゼンス向上に貢献。また、ISO12208(静止軌道の太陽電池劣化に及ぼす太陽陽子フルエンス計算手法)プロジェクトリーダーとして国際標準を作成・提案。
10	すずき としあつ 鈴木 敏厚	日本ケミコン株式会社 研究開発本部 ソリューション開発部 主管	蓄電器関連のコンデンサや電気二重層キャパシタに関してエキスパートやプロジェクトリーダーとして推進し、5件が国際規格として制定。特に電気二重層キャパシタは自動車や鉄道などの減速時のエネルギー回生に利用され、省エネルギー技術として日本に優位性がある。日本意見による測定方法が追加されたことは、利用者の利便性向上及び国際競争力強化に貢献。
11	すずき ゆうじ 鈴木 雄二	国立大学法人 東京大学 大学院工学系研究科 機械工学専攻 教授	IEC/TC47(半導体デバイス)/WG7(エネルギー変換・伝達分野の半導体デバイス)の国内対策主査、プロジェクトリーダー、コンビーナ及びIEC/TC47/SC47Fのプロジェクトリーダーとして、半導体デバイスの国際標準化に貢献。特に氏が研究の第一人者である半永久的な電荷をもつ絶縁体を活用する「エレクトレット方式」の振動発電デバイスの性能試験方法の国際規格制定に貢献。
12	たけうち てつお 竹内 徹夫	横河電機株式会社 マーケティング本部 渉外標準化センター 標準化戦略2部 技術スペシャリスト	スマートマニュファクチャリングの基本規格 IEC62453(フィールド機器管理ツール)、61804(プロセス制御の機能ブロックおよびデバイス記述言語)、62769(フィールド機器統合)の開発に国際的の第一人者として貢献。これらの規格の原案策定を行う国際コンソーシアム FDT(フィールドデバイスツール) Groupの技術トップとして規格原案策定とIECにおける円滑な審議に貢献。
13	ちんぜい きよゆき 鎮西 清行	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 健康工学研究部門 副部門長	ISO/TC299(ロボティクス)JWG35(手術ロボットの安全性)プロジェクトリーダーとして IEC 80601-2-77(手術ロボットの安全要求事項)の制定に大きく貢献。この規格は、近年、成長著しく、今後も成長が見込まれる分野のものであるが、各国の規制当局や企業の利害が対立する中において氏は、研究者としての専門性及び中立性に基づく、ワーキンググループの運営により各国の信頼も高かった。欧州ではこの規格が強制法規になる見込みであり、日本の評価方法が採択された貢献は大。

NO	氏名	所属	主な功績
14	ひょうどう けいいちろう 兵頭 啓一郎	ユアサシステム機器株式会社 R&D 技術部 執行役員 部長	IEC/TC110(電子ディスプレイ)の国際副幹事を現在まで7年以上務め、就任当初、参加国の軋轢から滞っていた規格開発について、国際協力関係と取り付け、運営を正常化しただけでなく、範囲の変更、新WGや主要国によるアドバイザリーグループ(AGS)の設立を推進するなどして、日本の電子産業にとって重要位置を占め、近年の成長著しいディスプレイ技術の国際標準化において確固たる地位を築くことに貢献。
15	ふじた こういち 藤田 浩一	トヨタ自動車株式会社 先進技術開発カンパニー 第2先進安全開発部 プロフェッショナル・パートナー	ISO/TC204(高度道路交通システム)プロジェクトリーダー及びエキスパートとして車両制御技術の国際標準化に貢献。特にISO19237:2017(歩行者検出・衝突被害軽減システム)においては、プロジェクトリーダーとして、国内の意見を取りまとめた上で、夜間などの異なる試験環境下においても再現性の高い試験方法を各国と調整し、各国の法規制やアセスメントに先駆けて確立した。今後、この規格が各国で採用されることで、交通事故の減少に貢献することが期待される。
16	まえだ しゅういち 前田 修一	三菱ケミカル株式会社 研究開発戦略部 アドバイザー 次世代化学材料評価技術研究組合 総務部 企画室 企画室長	IEC/TC119(プリントドエレクトロニクス)国内審議委員会副委員長、JEITA 標準化専門委員会委員長として、コンビーナポストを確保し、中心的検討者が34社にも及ぶ業種横断的な委員会の組織化に成功。短期間で11件の新規提案の推進に尽力。日本のノウハウの流出や不利益な規格成立を防ぐ等、日本の国際競争力強化に貢献。
17	もりた のぼる 森田 登	株式会社 電動機・ブラシ技術研究所 代表取締役 所長	近年、鉄鋼の圧延機駆動機は、直流から交流に移行しつつあるが交流の国際規格が存在しなかったことから、氏が提唱し、IEC/TC2(回転機)/WG34(電気回転機)の設立に成功し、コンビーナとして尽力。また、最長で40年改正されておらず廃止が議決された回転機用ブラシの関連規格について、発電機にとって重要かつ世界的にも多数生産されていることからこれらの改正の重要性を提唱し、MT14(電気機械のブラシとブラシホルダー)の設立にも貢献。

NO	氏 名	所 属	主 な 功 績
18	よこい おさむ 横井 修	東芝シュネデー ル・インバータ株 式会社 開発・設 計グループ 主幹	IEC/SC22G(可変速電気駆動システム)及びTC22(パ ワーエレクトロニクス)で4つのグループのエキス パート(うち2つは取りまとめ)として活動し、2 件の国際規格化に貢献。特に可変速駆動システム の効率の規格化においては、日本では普及してい ない方法が採用されていたため、従来のデータが 使用できなくなる又は高価な試験器の購入が必要 となる可能性があったが実証実験データ等の証明 により日本案が追記されることに貢献。

[五十音順、敬称略]

平成30年度国際標準化奨励者表彰（産業技術環境局長表彰）受賞者

NO	氏名	所属	主な功績
1	あおき しゅういち 青木 秀一	日本放送協会 放送技術研究所 テレビ方式研究部 研究員	ISO/IEC JTC1（情報技術）/SC29（音声、画像、マルチメディア、ハイパーメディア情報符号化）/WG11（動画像符号化：MPEG）にて、メディア伝送技術の国際規格制定におけるコア実験グループのコーディネータとして提案技術の調整を行い、エディタに指名され規格開発を加速し、ISO/IEC23008-1（異種環境における高能率符号化及びメディア配信 第1部：MPEG メディアトランスポート）などの発行に貢献。この国際規格をもとに4K・8K放送の国内規格整備が進み、多くのメーカーにより放送機器やテレビが開発され、実用化に結びついたことは、社会的波及効果が高く、今後のさらなる活躍も期待。
2	えんどう ともゆき 遠藤 智之	一般財団法人日本規格協会 規格開発センター 国際標準化ユニット 国際規格開発チーム 係長	ISO/TC69（統計的方法の適用）/SC6（測定方法及び測定結果）及びSC8（新技術及び製品開発のための統計的手法の応用）の国際幹事として貢献。今後の活躍に期待。ISO/TC20（航空機及び宇宙機）/SC16（無人航空機システム）、ISO/TC312（サービスエクセレンス）、シェアリングエコノミー等の国際標準化国内委員会事務局等を務め、国内体制の整備、我が国のプレゼンス向上等に寄与。
3	おおおか しょうへい 大岡 昌平	一般社団法人日本非破壊検査協会 国際事業室 室長	ISO/TC 135（非破壊試験）/SC 6（漏れ試験）国際幹事として、各国からの意見のとりまとめに尽力。特に欧州の意見が反映される傾向にあったため、脱退していた米国に対して粘り強く交渉を行うことにより2016年から参画することになり、日本と米国が協力し、国際標準化を推進する体制を構築。また、SC 7（技量認定）エキスパートとして、日本提案の意見反映に尽力するなど、海外における日本の非破壊試験技術者の地位向上に貢献。
4	くまの ゆたか 熊野 豊	パナソニック株式会社 AIS 社 インダストリアル事業開発センター 主幹技師	IEC/SC47D（半導体パッケージ）エキスパートとして参画。半導体パッケージの熱特性の議論を主導し、当該SCにおいて初めて半導体用パッケージの放熱構造などに関する標準化をスコープに含めることで、SC活動の活性化に貢献。今後も日本提案による国際標準化活動への貢献が期待。

NO	氏名	所属	主な功績
5	たにやす さち 谷保 佐知	国立研究開発法人 産業技術総合研究 所 エネルギー・ 環境領域 環境管 理研究部門 海洋 環境動態評価研究 グループ 主任研 究員	水質中の生物化学的測定方法などの国際標準化に貢献。特にこれまでのコンビーナ補佐としての実績に基づき、ISO/TC147（水質）/SC2（物理的・化学的・生物化学的測定）/WG74（水中のポリフルオロアルキル化合物（PFAS）測定方法）のプロジェクトリーダーとして、ISO/CD 21675（水中のポリフルオロアルキル化合物試験方法）の2019年の発行を目指し、ラウンドロビントストや原案の作成などに尽力しており、今後の活躍が期待。
6	でしまる ただし 弟子丸 将	公益財団法人鉄道 総合技術研究所 軌道技術研究部 軌道構造研究室 主任研究員	ISO/TC269(鉄道分野)/SC1(インフラストラクチャ)/WG7(締結装置)及びTC17(鋼)/SC15(レール、レール締結装置、車輪及び輪軸)/WG1(レール)のエキスパートとして、欧州と日本との締結装置及びその試験方法の違いなどを取りまとめるなどして、日本意見の反映に尽力。日本の鉄道産業界に貢献をただけでなく、今後もさらなる活躍が期待。
7	はんだ たかし 半田 隆志	埼玉県産業技術総 合センター 技術 支援室 主任	ISO/TC173（福祉用具）/SC1(車椅子)において、プロジェクトリーダー、コンビーナ及びエキスパートとして国際標準化に貢献。特にWG1（車椅子試験方法）のプロジェクトリーダーとして、走行耐久性試験の設定条件について各国との意見が数年に亘り対立していたが、国内メーカーの協力を得て、実験を行い、その結果を踏まえて提案したところ、日本案の大部分が認められて発行。
8	ひらかわ しんいち 平川 真一	ジャパン マリン ユナイテッド株式 会社 技術研究所 構造研究グループ グループ長	船舶の振動分野の国際標準化に貢献。特に既存の国際規格が旅客船等振動の少ない船舶の実績をもとに作成されており、一般貨物船には適用できない可能性を指摘し、新規提案を行い、プロジェクトリーダーとして国際標準化を推進し、新規提案後、わずか14か月後にISO21984（一定条件の船舶の居住適性に関する振動の測定、報告及び評価の指針）として制定した貢献は大。この制定が遅れた場合、現存船は改造等が必要となる可能性があり、日本の海運・造船業界は大きな恩恵を受けた。

[五十音順、敬称略]

平成30年度工業標準化功労者表彰（産業技術環境局長表彰）受賞者

個人

NO	氏名	所属	主な功績
1	あさくら ひさし 朝倉 久	(元)株式会社日立 製作所	20年の長きに亘り、ICカード技術に関わるJIS原案作成委員会委員として、国内普及とカード業界の発展に大きく寄与。また、ISO/IEC/JTC1/SC17(カード及び個人識別用セキュリティデバイス)/WG4・WG11の国内委員会(接触式ICカード、ICカード共通機能)の幹事として、多数の国際標準に日本の技術が反映されるよう議論を導いた。
2	おおたに あきひと 大谷 昭仁	学校法人 日本大学 理工学部 電子工学 科 教授	IEC/TC86(ファイバオプティクス)/SC86C(光ファイバシステム・能動部品)/WG1(光ファイバシステム・サブシステム)において「伝送信号品質評価のためのソフトウェアトリガリング技術を用いたアイ波形及びQ値測定」を新規提案し、プロジェクトリーダーとして国際規格化に成功。本規格は、従来のような伝送フォーマット、伝送速度ごとに仕様が固定化されるタイミング抽出装置を用いることなく、柔軟に仕様対応を可能とする「ソフトウェアによるタイミング抽出(同期)法」により、伝送信号品質を、簡易で低コストに評価可能とする規格。また、エキスパートとして多数の国際規格の審議に参画し、日本の部品・通信・計測器メーカーが不利にならない国際規格化に貢献。
3	くろかわ としあき 黒川 利明	一般社団法人 画像 電子学会 国際標準 化教育(STD)研究会 委員長	国際標準化を推進する人材育成を世界レベルで推進するため、2006年ICES(標準化育成国際協力)の創立を主導し、現在まで、運営ボードメンバー、会長を歴任。氏の貢献により、例年、年1回、10カ国以上が参画し、ISO、IECなどの国際標準化機関と大学、企業等の標準化教育関係者との情報交換・議論が積極的に行われている。また、プログラム言語に関する国際標準化及びJIS化にも貢献。
4	さとう みつあき 佐藤 光昭	一般社団法人日本自 動認識システム協会 研究開発センター バーコード担当 主 任研究員	自動認識技術に関する国内外の標準化活動に尽力。特に、バーコードの検証器及びスキャナーに関する2件のJISに関して原案作成委員長を務め、バーコードの読み取り性能の向上に貢献。

NO	氏名	所属	主な功績
5	なかき たかし 中久木 隆治	一般財団法人日本規格協会 規格開発センター 国際標準化ユニット 副ユニット長	JIS 原案作成委員会分科会委員長として、JIS L4129:2015 (子ども用衣料の安全性 子ども用衣料に附属するひもの要求事項)の開発に貢献。ISO/COPOLCO (消費者政策委員会) /WG2 (消費者の優先課題)の共同コンビーナとして、消費者関連の標準化の検討の進展に貢献。また、COPOLCO 及び、COPOLCO 提案により設立された消費者関連テーマの国際規格開発委員会に日本代表委員として参加し、審議の発展に貢献。
6	はまだ ひろし 濱田 裕	浜田技術士事務所 所長	33年間の長きにわたって、ゴム関係の国内外の標準化に貢献。特に物理試験方法や防振ゴムに関する JIS 原案作成委員長を 17年間にわたり務め、29件の制定、46件の改正に尽力。また、阪神・淡路大震災後、免震用積層ゴムの ISO 化及び JIS 化に中心となって尽力し、日本の技術及び実情に応じた免震技術の普及に多大な貢献を果たした。

[五十音順、敬称略]

組織

NO	組織名	主な功績
1	一般社団法人エコーネットコンソーシアム	家庭用の電気機器、設備機器に実装する通信仕様として ECHONET Lite 規格を策定、及び認証制度を確立。これにより家庭内にある様々なメーカーの製品が共通に制御できる環境を構築し、エネルギー機器の連携による低炭素社会実現の道を開いた。IEC/TC100 (オーディオ・ビデオ・マルチメディアシステム及び機器) TA9 (エンドユーザネットワーク用 AV マルチメディアアプリケーション) 又は TA8 (マルチメディアホームサーバシステムとエンドユーザネットワーク・アプリケーション) の国際幹事を 2012 年から現在まで務めるなど多くの国際標準化及び普及活動を実施。
2	学校法人桜美林学園	2013 年に国際標準化及び ISO マネジメントシステムを中心とした「国際標準化研究領域」を大学院経営学研究科に開設。国際標準化を学術的な視点で研究し、これまで、修士号授与者 29 名を輩出、現在も 17 名の大学院生が研究中等実践的な経営に資する標準化人材の育成に多大なる貢献。また、講師による各種の講演や書籍による普及・啓発にも貢献。

[五十音順]